



山形大学における 公開データを用いた IR分析事例

山形大学 学術研究院 教授

浅野 茂

(企画評価、IR担当)

E-mail: asano@cc.yamagata-u.ac.jp

平成30年度人材育成セミナー「IRデータ分析ワークショップ（第2回）」報告資料
2019年2月1日(金)@NIAD-QE竹橋オフィス1112会議室

本日の報告内容

0. プロフィール

1. なぜ、IR？

2. 公開データを用いたIR分析事例

3. まとめ

0. プロフィール（個人）

- 平成18年3月に神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了、博士（経営学）を取得。同年4月、神戸大学企画評価室採用。大学機関別認証評価、国立大学法人評価等の第三者評価に関連する業務に加え、神戸大学情報データベース（KUID）の管理運用等を担当。
- 平成25年10月、独立行政法人大学評価・学位授与機構研究開発部に着任し、国立大学法人評価の枠組みの検討や質保証に係る調査研究等に従事。
- 平成27年4月から現職。主として企画評価、IR業務に従事。その他、大学評価及び大学における意思決定支援機能としてのIR（Institutional Research）に関する研究を推進するほか、大学評価コンソーシアム副代表幹事（企画担当）、文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官、名古屋大学IR本部特任教授等の活動を通じて、日本の大学における大学評価及びIR業務の高度化、データベースの構築等に関する提言や話題提供を行っている。

詳細は、山形大学研究者情報に公開。

URL: http://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/200000148_ja.html

0. プロフィール（組織）

【構成】

- ・ 6学部（人文・地教・理・医・工・農）
7研究科、医学部附属病院、附属学校 等

【員数等】（平成30年5月1日現在）

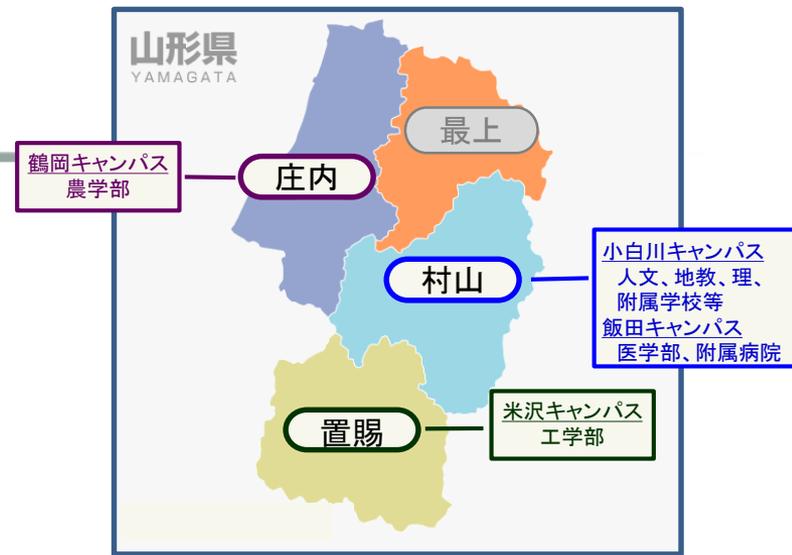
- ・ 学生数：約9,000人、生徒児童数：約1,300人

学部	入学定員	在籍者数
人文社会科学部	290	1,337
地域教育文化学部	175	876
理学部	210	851
医学部	180	1,034
工学部	650	2,744
農学部	165	660
計	1,670	7,532

大学院	入学定員	在籍者数
修士・博士前期課程	428	992
博士・博士後期課程	69	257
専門職学位課程	20	40
計	517	1,289

- ・ 教職員：約3,000人

⇒大学関係者：約15,000人（山形県人口の約1%、山形市人口の約5%）



（地域別入学者数）平成30年4月入学者

東北：64%、関東：16%、北陸・中部：15%

※東北の内訳：山形県：22%、宮城県：23%、福島県：7%

（地域別就職者）平成29年3月卒業生

東北：55%、関東：30%、北陸・中部：6%

※東北の内訳：山形県：27%、宮城県：19%、福島県：5%

（主な卒業生）

吉本隆明（思想家）、藤沢周平（小説家）

上田準二（エー・ファミリーマートホールディングス（株）代表取締役社長）

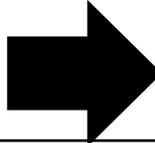
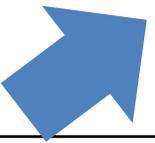
西海和久（株式会社ブリヂストンCOO）他

（先進的な研究分野）

有機材料、ナスカ地上絵、総合スピン科学、分子疫学他

1.なぜ、IR？

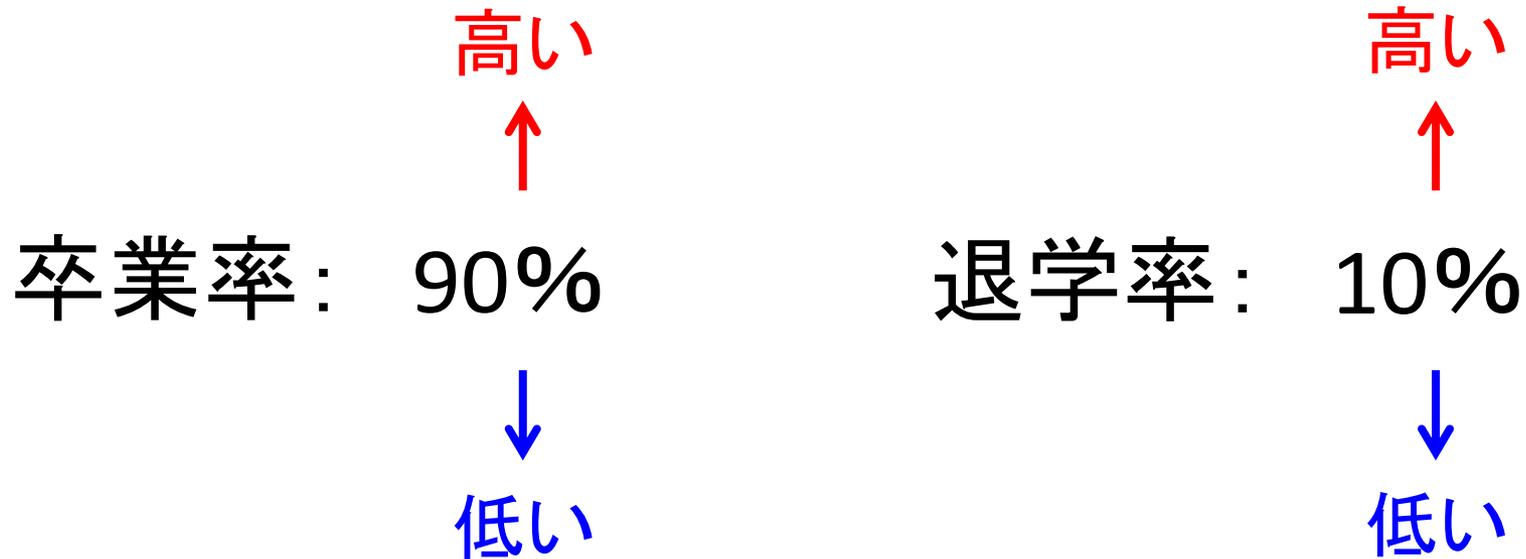
収入決算額（山形大学）

	対象	H16	H27	傾向（キーワード）
運営費交付金	国	121億	117億	 厳しい財政、 大学評価、K P I
学生納付金 収入	学生	51億	49億	 質保証、学生確保、 授業料金額設定
病院収入	患者	109億	187億	 経営に与える影響、 患者減少、コスト管理
産学連携・ 寄附金収入	企業・卒業 生・保護者	17億	45億	 魅力的な研究、 大学への帰属意識

（IRを必要とする背景）

- ①国立大学法人化による経営の自己責任
- ②多種多様なステークホルダーへの対応

1.なぜ、IR？



- 同じ数値であっても、それぞれの大学等が置かれている状況や組織の構成員にとって、捉えられ方は異なることが多い。
- 正確性のみならず、適切な理解を促すうえでIRが果たせる役割は大きい！

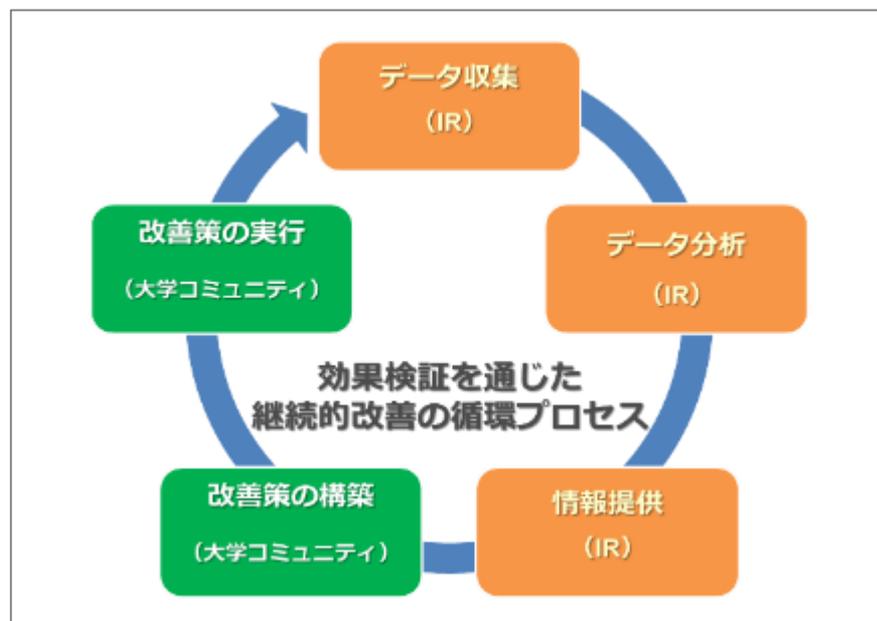
2.体制

Office of Institutional Research & Effectiveness



・IR (Institutional Research)とは客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること

・IE (Institutional Effectiveness)とはIR機能を活用して効果検証を行い、大学として継続的改善の循環プロセスを実行すること



2.公開データを活用したBIレポートの作成

The screenshot shows a web page with a header for the 'OFFICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH & EFFECTIVENESS'. On the left is a navigation menu with items like 'APプロジェクトについて', 'OIREについて', 'What's New?', 'Events', 'IR Activities', 'Reports', and 'Conference Presentations'. The 'Reports' section is expanded, showing a list of reports, with 'BI Reports' highlighted in green and circled in blue. On the right, the page title is '保護中: BI Reports' and a message states that the content is password-protected. Below this is a password input field and a '確定' (Confirm) button.

URL : <https://ir.yamagata-u.ac.jp/reports/bi-reports/>

2.公開データの所在 (学校基本調査)

統計で見る日本
政府統計の総合窓口

統計データを探す 地図で見る 統計分類・調査項目 その他

統計データを探す

データベースから探す ファイルから探す

分野から探す 組織から探す 地域から探す

キーワードで探す 例： 国勢調査

統計GIS
API機能
統計LOD
統計ダッシュボード

マイページ
ログイン
新規登録

統計で見る日本
政府統計の総合窓口

統計データを探す 地図で見る 統計分類・調査項目 その他

検索条件: 学校基本調査 業

26,268件のデータ

データベースから探す 2,709
ファイルから探す 26,268

学校基本調査

学校基本調査は、学校に関する基本的事項を調査し、学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的としています。調査の対象は、全国の幼稚園、幼稚園型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校であり、調査の内容は、毎年5月1日現在の学校数、在学人数、卒業生数等です。調査の結果は、当番する教育の課題を解決する基礎資料として利用されているばかりでなく、将来の教育計画を立てる際の貴重な資料として活用されています。

統計分類 (大分類) で絞込み
公開 (更新) 日
2018-08-02

統計で見る日本
政府統計の総合窓口

統計データを探す 地図で見る 統計分類・調査項目 その他

分野から探す

統計データを17の分野から探します。

主な調査には「最新統計」を表示しています。

エネルギー・水
健康・観光
情報通信・科学技術
教育・文化・スポーツ・生活

学校基本調査

統計で見る日本
政府統計の総合窓口

統計データを探す 地図で見る 統計分類・調査項目 その他

検索条件: 学校基本調査 業 / 学校基本調査 業 / 出身高校の所在地 業

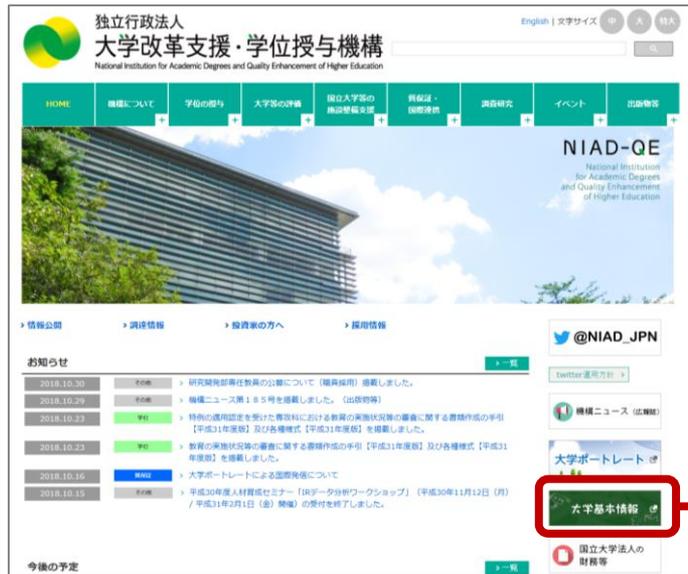
94件のデータ

データベースから探す 18
ファイルから探す 94

データセット

提供統計名・提供分類	調査年月	公開 (更新) 日	形式
学校基本調査 / 学校基本調査 / 平成30年度(速報) / 高等学校編 / 学校の調査 / 大学・大学院	2018年	2018-08-02	EXCEL
13/ 出身高校の所在地(短大)入学数			
学校基本調査 / 学校基本調査 / 平成29年度 / 高等学校編 / 高等学校編 / 学校の調査 / 大学・大学院	2017年	2017-12-22	EXCEL
16/ 出身高校の所在地(短大) 入学数			
学校基本調査 / 学校基本調査 / 平成29年度 / 高等学校編 / 高等学校編 / 学校の調査 / 短大	2017年	2017-12-22	EXCEL
41/ 出身高校の所在地(短大) 入学数			
学校基本調査 / 学校基本調査 / 昭和53年度 / 高等学校編 / 学校の調査 / 短大	1978年	2017-12-20	EXCEL
44/ 出身高校の所在地(短大) 入学数			
学校基本調査 / 学校基本調査 / 昭和54年度 / 高等学校編 / 学校の調査 / 短大	1979年	2017-12-20	EXCEL
44/ 出身高校の所在地(短大) 入学数			
学校基本調査 / 学校基本調査 / 昭和62年度 / 高等学校編 / 学校の調査 / 短大	1987年	2017-12-20	EXCEL
45/ 出身高校の所在地(短大) 入学数			
学校基本調査 / 学校基本調査 / 昭和53年度 / 高等学校編 / 学校の調査 / 大学・大学院	1978年	2017-12-20	EXCEL

2.公開データの所在（大学基本情報）



大学基本情報

ここでは、本機構による情報発信の取組として、平成24年度から平成30年度の国公立大学・短期大学から提供された基礎的な情報について掲載しております。
なお、各種データは大学からの情報提供により随時更新されますのでご注意ください。

- 大学基本情報2012 (H24)
- 大学基本情報2013 (H25)
- 大学基本情報2014 (H26)
- 大学基本情報2015 (H27)
- 大学基本情報2016 (H28)
- 大学基本情報2017 (H29)
- 大学基本情報2018 (H30)

- データ行の直上にセル結合をしていないラベルを非表示にて用意しております。データ分析等の際にご活用ください。
- 平成29年度よりファイルを「.xlsx」形式としました。
- 大学基本情報を利用される際は、以下の例のように出典を記載してください。
(出典記載例)
出典：大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」<http://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>（〇年〇月〇日） など
(大学基本情報を編集・加工等して利用する場合の記載例)
大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」（<http://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>）を加工して作成
大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」（<http://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>）をもとに〇〇大学作成 など
また、今後の参考のため、成果物の該当箇所をお知らせいただけると幸いです。
連絡先：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 評価事業部評価企画課（E-mail: uidb@niad.ac.jp）

(参考)
その他大学情報を発信しているウェブサイト

大学ポータル

2.Power BIによる可視化

出身高校の所在地県別 国公立大学入学者数 (学校基本調査, 2004-2016)

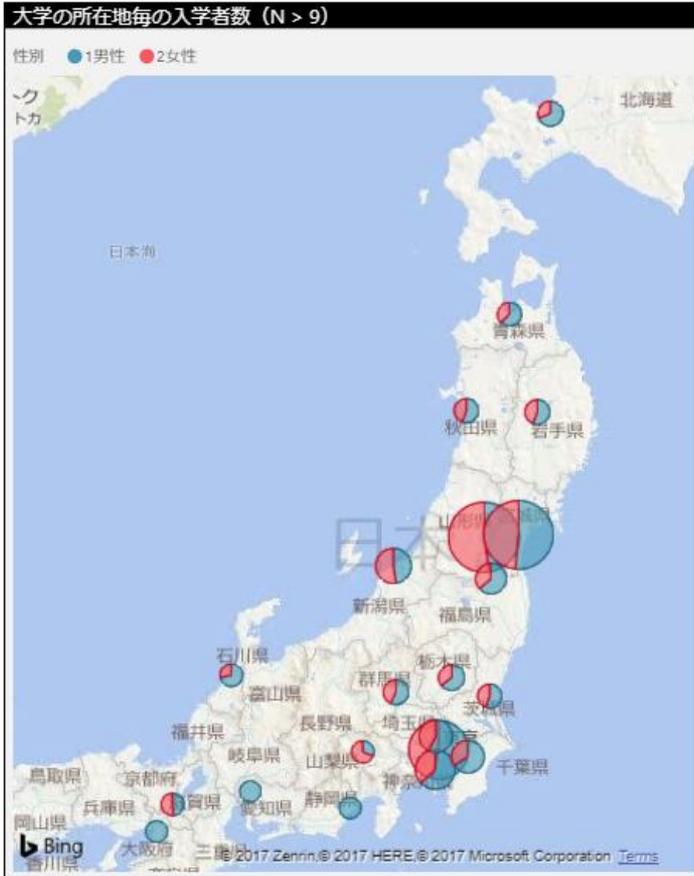
出身高校の所在地
06山形県

年度
 すべて選択
 2016
 2015
 2014
 2013
 2012
 2011
 2010
 2009
 2008
 2007
 2006

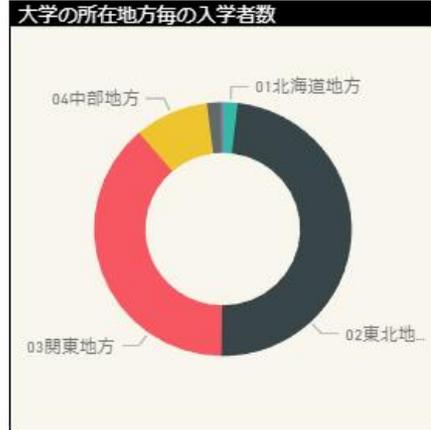
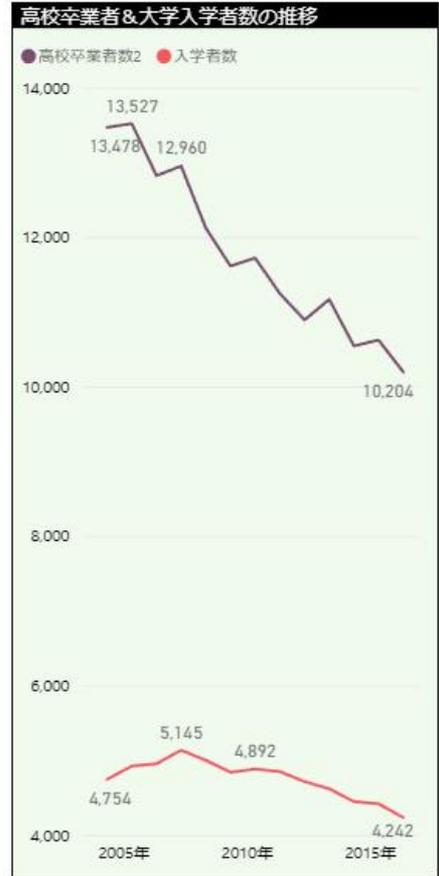
総入学者数 (出身高...)
4,242

入学者数 (男性)
2,300

入学者数 (女性)
1,942



レポートの内容 : 出身高校の所在地 → どこへ行ったのか



使用データ1: 高等教育機関《報告書掲載集計》 - 学校調査 - 大学・大学院
 使用データ2: 初等中等教育機関・専修学校・各種学校《報告書掲載集計》 - 卒業後の状況調査高等学校 - 全日制・定

Prepared by K. Fujiwara (OIRE, Yamagata University)

2.Power BIで作成したレポート

当日、投影しながら紹介します!

3.まとめ

- 大学を取り巻く環境は厳しくなる一方
 - ✓ 国の財政逼迫
 - ✓ 成果重視の予算配分
 - ✓ 18才人口の減少
 - 教育の質保証、学修成果を重視する政策への対応
 - ✓ 自ら教育の質を保証する体制と仕組みの整備
 - ✓ 個人ではなく、組織として教育する体制への転換
 - ✓ 「教員が何を教えたか」ではなく「学生は何ができるか」
 - 多くの大学においてIR部門を新設したり、既存の組織を再編・統合するなどしてIRの強化に向けた取組を実施しているが、必ずしも機能していない状況が散見される。
-
- The diagram consists of a blue-bordered box on the right containing the text 'データ、エビデンス等が重要' (Data, evidence, etc. are important). Two blue arrows point towards this box. The first arrow originates from a blue curly bracket on the left that groups the three bullet points under the first main point. The second arrow originates from a blue curly bracket on the left that groups the three bullet points under the second main point.

3.まとめ

- 米国に比して情報基盤が脆弱な現状にあるため、学内外に散在するデータの入手が困難。
- 併せて、規則やルール等が定められておらず、学内データであっても「大学のもの」として活用できないため、継続的にIR業務を実施しにくい環境にある。
- 学内データの収集・活用が難しいようであれば、公開データを用いることで、自大学の現状把握とともに他大学とのベンチマーキングなども実施できるため、ここから着手し、データに基づく意思決定を推進する文化を醸成していくのも一手。